# 論 文 審 査 の 要 旨

| 博士の専攻分野の名称 | 博　士　（ 学　術 ） | 氏名 | 柯　惟惟 |
|---|---|---|---|
| 学位授与の要件 | 学位規則第４条第①・２項該当 | | |

論　文　題　目

台湾における日系外来語について

論文審査担当者

| | | |
|---|---|---|
| 主　　査 | 教授 | 小川泰生 |
| 審査委員 | 教授 | 吉田光演 |
| 審査委員 | 教授 | 山田　純 |
| 審査委員 | 教授 | 荒見泰史 |

〔論文審査の要旨〕

本論文は台湾において，日系外来語について語の意味の認識度，語の使用度，日本語由来であることを知っているかどうかを問う日系度をアンケート調査し，台湾における日系外来語の使用状況を初めて広範に明らかにした研究である。

本論文は７章から構成されている。

第１章では研究動機，目的，台湾の言語諸相について述べる。

第２章では外来語の定義と台湾に流入した日系外来語の流入経緯について述べる。本論文では広義の定義を取り，音訳，意訳，借形（漢字表記，ローマ字表記，かな表記）共に外来語として認める。

第３章では日系外来語についての中国と台湾の先行研究を検討する。中国語と同じく漢字を用いる日本語から流入した日系外来語を研究するには，どんな分類方法があるのかに絞り，各研究者の論点を整理した。台湾では，全般的な日系外来語についての調査はほとんどなく，全面的に日系外来語の使用状況を捉える調査の重要性を指摘した。

第４章では調査する三種類の日系外来語の語彙選定方法について述べる。文字化した残存外来語と国語教育として学校教育で教わる近代外来語の語は先行研究から，新日系外来語は台湾で売り上げの高いファッション誌から，共に使用頻度の高い語を抽出した。

第５章ではアンケート調査について説明し，調査結果について分析する。抽出した 71 語の日系外来語を①認識度「語の意味を知っているかどうか」，②使用度「語の使用頻度」，③日系度「語は日本語由来であることを知っているかどうか」を調査する。男性 209 人，女性 360 人，合計 569 人を調査対象とする。調査結果は以下の通りである。認識度はかな表記の平均比率は 36％で高くないが，“の”は 91％である。残存外来語の平均比率は 95％で高いが，“烏西”は 26％で低い。使用度は近代外来語の認識度は 100％に達しているが，高い使用度の“不景気”（82％）のような語もあれば，低い使用度の“領海”（45％）のような語もある。残存外来語が 30 代での使用度が低い。日系度はかな表記の語が最も高く 91％である。日系度が低い近代外来語の中で，“派出所”のみ日系度が高い。

第６章ではインターネットによる調査について説明し，調査結果について分析する。台湾と中国の共通点は日系外来語の新聞での使用はブログより少ない。台湾と中国の相違点は新聞に

おいて、残存外来語と新日系外来語は台湾のほうが多く使用されている。

第7章で調査結果と分析のまとめについて考察する。アンケート調査の結果，以下のような結論が得られた。日系外来語を種類別から見ると近代外来語は安定している。残存外来語は定着に近づいている。新日系外来語はまだ不安定である。また，閩南語を経由し，國語(中国語)に受容された残存外来語で30代の使用度が低いのは，学校教育時代に社会の方言禁止の風潮や国民党当時の言語政策と深く関わっていると推測される。インターネット調査の結果，中国でも多くの日系外来語が使用されているが，台湾独特の残存外来語やサブカルチャーと関係のある新日系外来語は台湾のほうが多く使われていることが分かった。

本論文は分析面で更に深く掘り下げる必要性のある点も幾つかあるが，近代外来語，残存外来語とともに今まで研究されることの少なかった新日系外来語を取り上げ，アンケート調査とインターネットによる新聞とブログの調査を行い，台湾における日系外来語の使用状況を明らかにし，更にインターネットを通じ，新聞とブログでの使用状況，台湾と中国の使用状況の違いを記述したことは，高く評価できる。

以上，審査の結果，本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考　要旨は，1,500字以内とする。